

行政院國家科學委員會專題研究計畫 期中進度報告

《日語能力試驗》1.2 級語彙與閱讀的探討(1/2)

計畫類別：個別型計畫

計畫編號：NSC92-2411-H-002-062-

執行期間：92 年 08 月 01 日至 93 年 07 月 31 日

執行單位：國立臺灣大學日本語文學系

計畫主持人：趙順文

計畫參與人員：彭宜芝,陳達謙

報告類型：精簡報告

報告附件：出席國際會議研究心得報告及發表論文

處理方式：本計畫可公開查詢

中 華 民 國 93 年 5 月 24 日

行政院國家科學委員會補助專題研究計畫期中精簡報告

(含 2004 年 8 月預定出席國際會議論文)

《日本語能力試驗》1・2 級語彙與閱讀的探討(1/2)

計畫類別：個別型計畫

計畫編號：NSC92 - 2411 - H - 002 - 062

執行期間：2003 年 08 月 01 日至 2004 年 07 月 31 日

計畫主持人：趙順文

計畫參與人員：彭誼芝、陳達謙

執行單位：台灣大學日本語文學系

中 華 民 國 93 年 5 月 25 日

行政院國家科學委員會專題研究計畫其中精簡報告

計畫編號：NSC92-2411-H-002-062

執行期限：2003年08月01日至2004年07月31日

主持人：趙順文 台灣大學日本語文學系

計畫參與人員：彭誼芝、陳達謙 台灣大學日本語文學系

一、中英文摘要

在台灣「日本語能力試驗」，大專院校視為等同英語托福測驗，作為日語基本學力的一種指標。此外大學入學考試的二技四專入學專業考科「日文閱讀與寫作」及「日文閱讀能力測驗作」、「日文翻譯與寫作」命題時，莫不以此「日本語能力試驗」試題範圍作為出題依據的參考。

「日本語能力試驗」的重要性由上此可知，市面上也充斥著此類考試的參考書，但從學術的角度加以研究的相關論文卻鳳毛麟角。主要原因或許在於其涉及的層面太廣，舉凡文法、語彙、閱讀、聽解皆包括在內，如非長期鑽研，不僅難以掌握其全貌也難以見其成效。故本研究計劃選定大學日文系所基本學力指標的1・2級測驗試題作為基礎研究，擬分三年進行。第一年以文法為主；第二年以語彙為主；第三年以閱讀為主。

第二年以語彙為主的基礎研究分為三大部分。第一部分擬透過從1991年至2000年十年間1・2級測驗的語彙試題語料，探討與分析其類型。第二部分根據此結果，檢討與原「出題基準」之間的落差。第三部份根據此結果，檢討文大、淡大、東吳、輔大、台大、政大、東海、靜宜、銘傳、高科大等10所大學現行所用教科書的合理性。

此研究計劃除作為日語研究的指標外，不僅可落實在日語教學上被視為評量學生學習效果重要一環的命題改善，亦可作為二技四專入學專業考科學力測試的命題參考。

關鍵詞：日本語能力試驗 1・2 級文法・語彙・閱讀・出題基準・教科書

Abstract

“Japanese Language Proficiency Test” is regarded as an index of Japanese language ability that is similar to the English test, TOFEL, in Taiwan. The importance of Japanese Language Proficiency Test can be proved by 30,000 registered examinees each year, including Japanese majors in universities, or Business Japanese

majors in vocational schools.

In addition, the major subjects of Two and Four Years Vocational Colleges Entrance Examination, such as “Japanese Grammar and Vocabulary” “Japanese Reading and Writing” “Japanese Reading Proficiency Test” and “Japanese Translation and Writing” are all based on Japanese Language Proficiency Test.

This research contains three sections. The first section is the analysis of grammar tests in the First and Second Level proficiency test from 1991 to 2000. Based on the results of the analysis, the second section is the discussion of the gap between the results and the “test standard”. The final section, according to the findings from the second section, will examine the textbooks from Chinese Culture University, Tamkang University, Soochow University, FuJen University, National Taiwan University, National Chenchi University, Tunghai University, Providence University, Ming Chuan University, National Kaohsiung First University of Science and Technology. Further suggestions will be provided to Japanese language research and teaching.

Keyword : Japanese Test on Grammar, Vocabulary and Reading I & II • The Standard of Questions • Textbook

二、緣由與目的

在台灣「日本語能力試驗」，大專院校視為等同英語托福測驗，作為日語基本學力的一種指標。包括外系學生在內，每年各大學·技術學院·高中內的日本語文學系、日語應用學系、商用日語科在內的考生多達3萬人參加此測驗可為明證。

此外大學入學考試的二技四專入學專業考科「日文閱讀與寫作」及「日文閱讀能力測驗作」、「日文翻譯與寫作」命題時，莫不以此「日本語能力試驗」試題範圍作為出題依據的參考。

從學術角度而言，此「日本語能力試驗」當做日語基本學力的一種指標為了電腦閱卷上的方便，必免不了的著重在語文能力聽讀的Input理解面。而諸如測試學生會話能力的口試以及與書寫能力有關的作文或翻譯或改錯等說寫的Output應用面等項目接付之闕如，距離理想的基本學力評量雖說有一段距離。

但就現階段而言，此「日本語能力試驗」仍不失最具公信力與重要性的測驗之一，也難怪甚多高職甚至於大學中將此測驗，視同必修，列為學生是否能畢業的門檻。以台大為例，也將「日本語能力試驗」1·2級合格證書列為甄選姊妹校交換留學生的必要條件。

「日本語能力試驗」的重要性由上此可知，因此市面上也充斥著此類考試

的參考書，但相關的此類研究論文國內外卻不多，僅止於財團法人日本語國際教育協會事業部（1999,2002）、趙（2000・2001）、廖（2001）等論文。主要原因或許在於其涉及的層面太廣，舉凡文法、語彙、閱讀、聽解皆包括在內，且橫跨日語語言學與日語教學兩層面，屬於整合性的研究。如非長期鑽研，不僅難以掌握其全貌也難以見其成效。

本計劃主要的目的，在於透過語料的實證，分析探討「日本語能力試驗」1・2級文法、語彙、閱讀試題的類型。依此類型不僅可檢驗與原「出題基準」之間的落差，也可進一步檢討國內教科書的合理性。

此研究計劃之實現除作為日語研究的指標外，不僅可落實在日語教學上被視為評量學生學習效果重要一環的命題改善，亦可作為二技四專入學專業考科學力測試的命題參考。

三、結果與討論

「日本語能力試驗出題基準」(以下簡稱「出題基準」)內所列舉的語彙項目按五十音順排列。語彙 4級 728 詞, 3級 681 詞, 2級 3626 詞, 1級 2974 詞, 合計 8009 詞。一般人刻板印象認為語彙 4級 800 詞, 3級 1500 詞, 2級 6000 詞, 1級 10000 詞, 合計 10000 詞。事實上前述「出題基準」所列出的詞彙項目僅是參考值, 未列出的將近 2000 詞的 1991 詞由出題者自行判斷追加。特別是擬聲語與擬態語的情況最為嚴重, 另外複合語由 2 級與 1 級語彙所構成, 隸屬級數的判斷能尚待討論。現將重點歸納成下列三點：

1)語彙項目按其出題形式可分成三大類型。

語彙項目按其出題形式可分為測試 1)語彙內的漢字或讀音 2)同義詞 3)多義詞。1)項方面, 只要是「出題基準」所列出的, 無論是漢字或其音讀、訓讀的讀音皆包括在內。這部分對台灣人而言倒是駕輕就熟。2)項方面則為難題, 它牽涉到語義分析, 例如 2000 年度內的「フォーム」「ポーズ」的區別, 根據『新明解国語辞典』的解釋為‘絵や彫刻などのモデルの取る姿勢’; 後者為‘プレーをするときの姿勢’。兩者之差異在於一為充當模特兒心態刻意的擺姿態, 一為運動時自然的姿態。3)項方面為多義語的選項。此項惟由導入認知語言學的手法, 視語彙核心語義內含有一典型的基本義, 歧義與多義接由此衍生或轉義而成, 再以例如 2000 年度內的「なげる」為例其試題與『新明解国語辞典』的解釋對比如下：

なげる.....あの人のことはもうなげている。何をいってもむだだ。

- 1 うちのイヌは、ボールをなげてやると喜んで追いかける。
- 2 まじめな職業の代表と思われていた銀行員の犯罪は社会に話題をなげた。

- 3 すもうでは、からだの大きな人が小さな人になげられたりするからおもしろい。
- 4 手伝うと言っておいて、途中でなげられては困る。ちゃんと最後までやってほしい。

なげる【投げる】

(他下一)

- <(どこ・なにニ)なにヲ>ある目標に向かって届けようとする。
- <(どこ・なにニ)なにヲ>少し離れた所まで作用が届くようにする。
- <なにヲ>ある目標に向かっての行動(の継続)を、何かの事情であきらめる。
- <だれヲ>相手のからだをつかんだりかかえたり攻めて来る相手の力を逆に利用したりして、たたきつけるようにころばす。

如將辭典修正如下,即原解釋改爲□爲基本義爲具體的, □項爲第一次衍生義爲抽象的□項爲第二次衍生義,爲中途放棄,其句型止於[だれガなにヲ]□項爲第二次衍生義,則轉義爲丟擲對方身體,其句型一同樣使用[だれガなにヲ].止於透過此種手法的解析,則從句型與釋義可清楚地看出其脈落,不至於流入死記硬背的死胡同內.

なげる【投げる】

(他下一)

- [だれガ(どこ・なにニ)なにヲ]少し離れた所まで作用が届くようにする。
- [だれガ(どこ・なにニ)なにヲ]ある目標に向かって届けようとする。
- [だれガなにヲ]ある目標に向かっての行動(の継続)を、何かの事情であきらめる。
- [だれガだれヲ]相手のからだをつかんだりかかえたり攻めて来る相手の力を逆に利用したりして、たたきつけるようにころばす。

2)語彙試題語料與原「出題基準」有落差.

檢視語彙試題語料,發現有些語彙項目十年來,皆未出現在試題內.有些語彙則一再重複,顯示雖同列爲出題基準,但出現頻率則有所不同.惟所癥結點是出現頻率的多寡,是否代表其重要性的高低,則有待進一步的觀察.

3)現行各大學所採用的高級日語教科書語彙與「出題基準」的比率大致一樣.

檢視文大、淡大、東吳、輔大、台大、政大、東海、靜宜、銘傳、高科大等10所大學現行高級日語所用四種教科書『日本語Ⅲ』(東京外国語大学日本語付屬日本語学校)『テーマ別 上級で学ぶ日本語』(阿部裕子)『New Approach 中上級日本語完成編』(小柳昇)、『日本語上級読解』(柿倉郁子)內的1、2語

彙如下:

『日本語Ⅲ』	1 級 576(14.24%), 2 級 1311(32.34%)
『テーマ別』	1 級 389(14.97%), 2 級 920(35.41%)
『New Approach』	1 級 163(11.75%), 2 級 540(38.93%)
『日本語上級』	1 級 373(12.53%), 2 級 1007(33.81%)

四、計劃成果自評

本計劃針對「日本語能力試驗出題基準」內所列舉的語彙項目按五十音順排列以 2 級 3626 詞, 1 級 2974 詞, 合計 6597 詞做為素材. 第一部份從十年間 1・2 級測驗的語彙試題語料, 探討與分析其類型. 第二部分根據此結果, 檢討與原「出題基準」之間的落差. 第三部分檢視文大、淡大、東吳、輔大、台大、政大、東海、靜宜、銘傳、高科大等 10 所大學現行所用高級日語教科書語彙的合理性. 由於時間所限, 第三部份僅檢視高級日語教科書的部分, 而省略掉中級日語教科書的探討. 此處有待將來的研究, 再做進一步的補強.

本計畫以語彙試題語料做為素材, 從上述三個角度加以探討分析, 所得研究結果與原計劃內容大致相符. 所獲研究成果除第三部分的中級日語教材外, 達成除預期目標. 在學術或應用價值方面, 值得參考, 並擬發表論文『台灣日本語教育論文集』上, 以供學界參考.

五、參考文獻

- 林大編著 (1982) 『図説日本語』 角川書店
国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表』 大日本図書
国立国語研究所 (1980) 『日本語教育基本語彙七種比較対照表』 大蔵省
国際交友基金 (2002) 『日本語能力試験出題基準 改訂版』 凡人社
伊藤雅光 (2002) 『計量言語学』 大修館
大坪和夫 (1995) 「日本語能力試験」 『日本語教育 86号』
柴田武・山田進 (2002) 『類語大辞典』 講談社

國際學術會議報告

2004 年 8 月 6-7 日

報告人姓名	趙順文	服務機構 及職稱	台灣大學日本語文學系 教授
-------	-----	-------------	------------------

時間 會議 地點	2004年8月6-79日 日本東京 昭和女子大學	本會核定 補助文號	NSC93-2411-H-002-014
會議 名稱	(中文) 2004 日本語教教育國際研究大會 (英文) International Conference on Japanese-Language Teaching, 2004, Tokyo		
發表 論文 題目	(中文) 新明解國語辭典第五版的研究—以基本動詞的句型爲中心 (英文) A Study of the Shimeikai Dictionary Revised5—From the View of the Basic Verb		

『新明解国語辞典第五版』の研究—基本動詞の文型を中心に

趙順文（台湾大学日本語文学系）

1・序

言語習得には学者の研究成果を反映させた言語教育に有用な辞書と文法書がどうしても必要である。前者は語彙項目の解説の集積であり、後者は音韻論、形態論・統語論・意味論・語用論などを含めた言語規則である語法のことと考えられるが、ここでは狭義的に語彙と統語論の関係を扱う。語彙は単語の集合である。単語一つ一つは決して孤立的存在ではなく、それを取り巻くある種の単語クラスをなすことによって、語彙体系を作るのである。単語結合は二つあるいはそれ以上の自立的な単語の結合によって、ある一定の文法的関係のもとで作られる統語論的構造である。

このことをもう一步進んで具現化し、発展させた奥田（1983）の連語論の重要さはいくら強調してもし過ぎることはない。これは日本語においてある名詞クラスと動詞クラスとの関係を始めて探求したもので、中身が濃く、面白く、日本語教育への応用にもってこいである。特に単語と辞書との関係に関する奥田の次ぎの一節は興味深い。

母国語であれ、外国語であれ、単語の正確、たくみな使用のために、字びきが必要である。この字びきは使用のそとにある単語のリストであって、これを倉庫にたとえられることができる。字びきの編者はこの倉庫に単語をひろいあつめて、いちいちの単語の性質をいろんな側面からあきらかにするわけだが、このとき、かれが単語の本質をどのように理解しているか、どのふかさで理解しているかということ、できあがった字びきは当然ことなるものになる。

たとえば、ロシア語の字びきでは、動詞のいちいちの項目に、その動詞の格支配

government が記入してあるのがふつうであるが、こうするのは、動詞の語彙的意味が格支配のなかで実現することを字びきの編者はしているからである。多義的な動詞における派生的意味は、他の単語（とくに名詞）とどのようにむすびついているかということのなかで実現しているのだが、字びきの編者はこのことをしているのである。しかし、日本の字びきの編者たちは、動詞の格支配について、けっしてふれようとしない。このことは、おそらく構文論的な構造を単語の語彙的な意味の存在の形式としてとらえることのできない、字びきの編者たちのよわさからきているのだろう。単語は構文論的な構造のなかに存在する。とすれば、単語が構文論的な構造から自由であるはずがない。

最近、新しい試みとして日本語辞書に「語結合の型」という基本文型を添え、統語的情報を充足させて、この欠陥を補うのが1997年に出版された『新明解国語辞典第五版』である。これはひとえに言語学者のたえざる反省によるものであろう。

『新明解国語辞典第五版』では基本文型の概念にほぼ相当するこの「語結合の型」に関する記述が基本動詞約一千語を中心になされている。記述にあたっては、名詞を後続させた格助詞の表層格だけではなく、名詞自身が有する意味範疇である意味特徴を簡潔に「だれ・なに・どこ・なんだ」などの四種に区分している。もともと難問とされる動詞に対する名詞の意味的な役割いわゆる意味役割あるいは深層格は本辞書の記述において除外される難点があるだろうが、日本語学習者のよき参考書としての価値は一向に変わらないのである。

本稿では『新明解国語辞典第五版』に出る基本動詞の文型を先行研究の記述と付き合わせると同時に、「だれ・なに・どこ・なんだ」の意味特徴の分類を原則的に踏まえながら、なおかつ最近の認知言語学の成果による辞書学の語釈と意味記述の手法に基づき、その問題点を点検し、妥当性を探求することによって、よりよい文型記述を試みる。

2・先行研究と問題点

動詞の基本文型の記述に関する研究者向けの専門書は決して少なくない。例えば・石綿敏雄ら（1983）は1000語ぐらいの動詞、情報処理振興事業協会IPAL（1987）は700語ぐらいの動詞、小泉保ら（1989）は800語ぐらいの動詞、池田悟ら（1997）は6000語の用言を取り上げて、それぞれ違う方法に基づいて記述・分析がなされている。これらの専門書は記述・分析が緻密であるがゆえに、研究資料として貴重なものであるとはいえ、日本語学習者に向いていないようである。上述の池田悟らを例に取れば、その拠って立つ言語理論は時枝誠記の言語過程説なので、とうてい一般の学習者の理解をはるかに超えているし、普通の辞書を参考にしても、基本動詞の語釈と意味記述も随分

違っている。例えば

『新明解国語辞典第五版』と『明鏡国語辞典』に出る「仰ぐ」に関するそれぞれの記述は次のようである。

あおぐ【仰ぐ】

(自五)

□<なに・どこヲ>顔を上に向ける。顔を上げて、上の方を見る。

(他五)

□<だれヲなんだト>自分より上の人として扱い、その指導に従う。

□<だれニなにヲ>しかるべき筋に頼んで、何かをしてもらう。

あおぐ【仰ぐ】《他五》

□頭を上に向ける。見上げる。

□優れた者として尊敬する。

□尊敬してある地位に就いてもらう。

□下の者が上の者からの働きかけを願い求める。請う。

□毒などを上に向いて一気に飲む。呷る。

これは自動詞と他動詞との区別は無論のこと、項目の立て方ないし意味解釈など三者の記述方法に大きな隔たりがあることを浮き彫りにした。それだけにこれらの辞書の記述に対

して学習者が示した戸惑いは理解できる。

一方、国松昭(1992)は□説明主義と簡潔主義(言い換え主義)□大分類主義と小分類主義□歴史主義ないし規範主義と現代用法中心主義と、三つ柱を立てて、伝統の日本語辞

書の持つ性格について説明している。

第一点の説明主義は『新明解国語辞典』の特色の一つと数えられているが、説明が程よく簡潔明瞭になされるのは並大抵のことではない。特に基礎語彙は説明しすぎて、かえって分かりにくい場合もある。例えば「机」の語釈はむしろ補助手段として具体的な絵を提示するのが近道であろう。これに対し、簡潔主義に訴える循環論証性(Circularity)¹の欠点はあまねく人の知れるところである。例えば『明鏡国語辞典』では「キス」は「口付け」「接吻」、「口付け」は「キス」「接吻」、「接吻」は「キス」「口付け」は「接吻」と、記述がなされている。三者の違いはいまだに解決されていない。第二点の大分類主義と

小分類主義との区別はかなり主観的なので、上述の辞書は勿論のこと、手元にある辞書を見ても、十人十色で編者の立て方がそれぞれ異なるのは当然であろう。第三点の歴史主義ないし規範主義と現代用法中心主義は通時的立場か共時的立場かのいずれかによって記述の分かれるところであるが、言語学習者のためのいい辞書は過不足なく両方の長所をとるのが常道であろう。

3・分析と記述方法

上述の伝統の辞書に共通する難点は多義語の記述方法の一語に尽きる。今までの理論言語学の意味分析に基づいた従来の辞書学では多義語の語釈と意味記述に際して必要かつ十分な意味素性の集合によって意味クラスが形成されている。換言すれば意味クラスの大分類主義と小分類主義を問わず、語彙の意味クラスは明確な境界を、意味クラス内のすべての成員である各項目は同等の資格を持っている。この観点はよく一つのスロットに一つだけの物をい入れる容器論にたとえられている。つまり使用者が知らない語にぶつかったとき、これまで頭に蓄えられた多くの意味クラスから適切な項目一つだけを選び取って、解釈を下すのである。もっと敷衍すれば多義語の記述に対する伝統の辞書学の重点は項目と項目との「相関性」ではなく、独自の意味素性を重視するその「区分性」にある。

例えば小西友七ら(2001)では英語の *eye* について次の語釈と意味記述がなされている。もつともこれは上述の伝統の理論言語学の意味分析に基づいたものと言えよう。

eye——名 **1** 目《しばしば目のまわりを含む》；眼球，目もと・**2** 視力，視力 **3** 目つき，まなざし，視線・**4** 監視の目，注視；眼識 **5**〔しばしば～s〕観点，見方，判断・**6**（物・事の）中心，眼目；（渦巻き・花・回転などの）中心；（ジャガイモの）芽；… **7**（(南ア)）（川・泉の）水源，水の湧き出口・**8**（(主に米南部)薪ストーブの上部投入口の穴にかぶせる丸い平らなふた）・**9**（光電池などの）光電性装置・**10**（(略式)）（私立）探偵・

一方、認知言語学の観点から必要かつ十分な意味素性の集合によって意味クラスが形成されるのは不可能であるし、語彙の意味クラスの境界はファジーであり、しかも意味クラス内のすべての成員である各項目は同等の資格を持っておらず、その中心的成員から周辺の成員まで段階的に関連づけられている。多義語のネットワークはまさにめいめいの類似性を通してプロトタイ

プとしての典型的な成員と、そこから新たに拡張された派生的成員が相互に意味的につながりのある相関性を作り上げることを目的とする家族チェーンにた

とえられる。

よく誤解を招くが、いくつかの辞書を除いて多義語の記述の順序に関しては時代を追って古い意味から新しい意味へと記述していく方法をとるのが常であるが、この方法によれば、明確な語源を出発点に、最初から読み進めれば、自然に語の意味変化の相関性が理解できると考えられている。しかしその重点は依然として項目間の区分性に置かれている。特にすべての語源が明らかにされていないかぎり、語源をプロトタイプとしての典型的な基本義とする牽強附会の語源解釈はかえって語の真の理解を妨げるし、時代の変化に伴って、ネットワークの中心をなす基本義は必ずしも語の歴史的な語源に相当するとは限らない²。次は上述のと違って、認知言語学に基づいた *The New Oxford Dictionary of English* (2001)の記述である。

eye □ noun 1 each of a pair of globular organs in the head through which people and vertebrate animals see, the visible part typically appearing almondshaped in animals with eyelids. ■ the corresponding visual or light-detecting organ of many invertebrate animals. ■ the region of the face surrounding the eyes. ■ a person's eye as characterized by the colour of the iris. ■ used to refer to someone's power of vision and in descriptions of the manner or direction of someone's gaze. ■ used to refer to someone's opinion, point of view, or attitude towards something.

2 a thing resembling an eye in appearance, shape, or relative position, in particular:

■ the small hole in a needle through which the thread is passed. ■ a small metal loop into which a hook is fitted as a fastener on a garment. ■ Nautical a loop at the end of a rope...

また従来の理論言語学を踏まえながらも、認知言語学を考慮に入れた eye に相当する中国の辞書《现代汉语规范词典》を参照されたい。なお記号「→」「□」はそれぞれ第一次派生的意味と第二次派生的意味を表す。

眼 □ 〈名〉人或动物的视觉器官。

→ □ 〈名〉小窟窿；小孔洞。

□□〈名〉**围棋术语**，指由一方棋子**围**住的空位，**对方**非因特殊情况不能在其
中下棋子。

□□〈量〉用于井、泉水或窑洞。

→□〈名〉只**识别能力**；**见识**。

→□〈名〉指事物的**关键**、**精要**的地方。

□〈名〉**戏曲**中的**节拍**。

一方、基本文型に関して様□な定義がなされているが、ここでは文はまとまった意味を持ち、前後にはつきりしたポーズを置き、しかも一定の語調を有する言語単位であるとした上で、基本文型とは文のかなめである述語と、その実現に不可欠な必須成分たる格助詞を後続させた名詞（句）との組み合わせであると定義したい。換言すれば、基本文型は文の述語と必須成分との組み合わせであるのに対し、基本文型から派生した応用文型は文の述語と必須成分に、さらに述語の実現に不可欠ではない随意成分を組み合わさったものと考えてよかろう。いわゆる『日本語文型辞典』と銘打った類書は実際基本文型ではなく、応用文型に属すべきものと位置付けられよう。

日本語に則して言えば、文の述語は動詞述語・形容詞述語・形容動詞・名詞の四つに大別することができる。『新明解国語辞典第五版』では用語こそ違え、基本文型の概念にほぼ相当するこの「語結合の型」に関する記述がもつぱら厳選された基本動詞約一千語を中心になされている。注意すべきは記述に際し、名詞を後続させた格助詞の表層格だけではなく、名詞自身が有する意味範疇である意味特徴も「だれ・なに・どこ・なんだ」などの下位分類にとどめて射程に入れることである。具体的に言えば、動詞「要る」に関する本

辞書の記述は次のようである。

要る（自五） 〈なにニー〉

働く（自五） （他五）〈なにヲー〉

本辞書では格助詞「ガ」に関する記述がいつさい省略されているが、これは動詞の実現に決まって不可欠な格助詞「ガ」を中心とする必須成分をいちいち記述するようでは、手続きが極めて煩瑣であることによる。しかし主語たるこの必須成分の意味特徴を除外した記述では整合性を期する目標にほど遠いと思う。この動詞を例に、本稿では上述の記述を次のように修正したい。

要る〔だれ/なにニ だれ/なにガ〕

働く〔だれ/なにガ〕
〔なにガ なにニ 〕
〔だれガ なにヲ〕

もつとも「要る」「働く」に対して、その必須成分たる名詞の意味特徴と意味役割（深層格）ないし格助詞（表層格）を三拍子揃って漏れなく記述するのが最善であるが、意味役割に関する言語理論が甲論乙駁、分かれている現在では認知言語学のプロトタイプ論の基本義を考慮に入れたうえ、名詞の意味特徴と格助詞との二点に絞って、記述を行うほうがよかろう。例えば本辞書の「愛する」の記述は次のようである。

あいする【愛する】 (他サ) <なにヲ> □ (異性に対して) 愛情を持つ。□ 好きで、いつもそれに親しむ。□ かけがえの無いものと思つて、大切にする。

現段階では原辞書に書かれた語釈を遵守したまま、上述の理論に則つて、この動詞を例に、次のような記述を行いたい。

あいする【愛する】

(他サ)

- <なにヲ> 〔だれガ だれヲ〕 (異性に対して) 愛情を持つ。
- □ <なにヲ> 〔だれガ だれ/なにヲ〕 好きで、いつもそれに親しむ。
- □ <なにヲ> 〔だれガ だれ/なにヲ〕 かけがえの無いものと思つて、大切にする。

ちなみに *The New Oxford Dictionary of English* (2001) と 《現代汉语规范词典》の記述は次のようである。

love [with obj.] feel a deep romantic or sexual attachment to (someone);
■ like very much; find pleasure in.

爱 (愛) ai □ 〈动〉 对人或事物有深厚真挚的感情。

→ □ 〈动〉 珍惜；爱护。

→ □ 〈动〉 喜欢；爱好。

□ 〈动〉 经常容易发生 (某种行为或变化)。

4・結語

本稿の目的は現代日本語を簡潔明瞭に解釈する辞書として好評のある『新明解国語辞典第五版』に出る基本動詞の文型記述についてその問題点を点検し、妥当性を探求して、よりよい文型記述を試みることによって、日本語学ないし日本語教育に寄与することにある。

結論的に言えば、第一に、国松（1992）を取り上げて、伝統の日本語辞書の持つ性格を検討し、『明鏡国語辞典』という実例を介し語の定義に関する循環論証性の欠点をいまだに免れないと指摘したうえ、その拠って立つところの従来 of 理論言語学の意味分析に基づいた語彙の語釈と意味記述に際して、項目と項目との「相関性」ではなく、独自の意味素性を重視するその「区分性」の難点を敷衍した。

第二に、実例として認知言語学の研究成果と知見を取り入れた最新の英語辞書 *The New Oxford Dictionary of English*（2000）と中国語辞書は《現代汉语规范词典》（2004）を取り上げて、現在の日本語辞書の語彙の語釈と意味記述と比較した。

第三に、現段階では原辞書に書かれた語釈と動詞の文型記述に際しての「だれ・なに・どこ・なんだ」の名詞の意味特徴を遵守したまま、プロトタイプ理論に準拠した「相関性」の概念を導入して、項目と項目との「相関性」を浮き彫りにし、かつ動詞の主語を重視し、意味クラス内の一項目に一文型を対応させる記述方法を採用することによって、言語データに基づいて、現辞書の基本動詞の文型記述につとめた。

【注】

- 1・Wierzbickaはsaucerとcupを取り上げて、循環論証性の弊害を訴えている。
- 2・山梨は動詞「つける」の多義性を分析した結果、基本義の意味と拡張された意味のかなりの部分は定着度に関して際立った差は認められないとしている。

【参考文献（abc順に）】

- 池原悟・宮崎正弘・白井諭・横尾昭男・中岩浩巳・小倉健太郎・大山芳史・林良彦（1997）『日本語語彙大系全5巻』岩波書店
石綿敏雄・荻野孝野（1983）「結合価から見た日本文法」『文法と意味Ⅰ』朝倉書店
北原保雄（2002）『明鏡国語辞典』大修館書店
情報処理振興事業協会（1987）『計算機用日本語基本動詞辞書IPAL辞書編と解説編』
小泉保・船城道雄・本田昌治・仁田義雄・塚本秀樹編（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店

- 小西友七・南出康世（2001）『ジーニアス英和大辞典』大修館書店
- 国松昭（1992）「国語辞典をめくって」『世界の辞書』研究社
- 李行健（2004）《现代汉语规范词典》外语教学与研究出版社・语文出版社
- Oxford University Press（2001）*The New Oxford Dictionary of English*
- 荻野孝野・小林正博・伊佐原均（2003）『日本語動詞の結合価』三省堂
- 奥田靖雄（1984）『ことばの研究序説』むぎ書房
- SIDNEY I. Landau（1984）*Dictionary:the art and craft of lexicography*、（小島義郎・増田秀秀夫・高野嘉明訳(1988)『辞書ガクのすべて』研究社出版）
- 趙順文（1995）『日文動詞基本句型解析』台湾旺文社
- 趙順文（2003）「台湾の大学のカリキュラムにあった日本語教育」『国文学解釈と鑑賞7月号日本語研究と日本語教育』至文堂
- WIERZBICKA A. (1985) *Lexicography and Conceptual Analysis*, Karoma Publishers.
- 山梨正明（2000）『認知言語学原理』くろしお出版
- 中國社會科學院語言研究所詞典編輯室編(2003)《現代漢語詞典繁體字版》商務印書館